

Ⅲ 耕地の利用状況

1 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（令和6年）

(1) 田畑計の作付（栽培）延べ面積は386万1,000ha（前年に比べ5万1,000ha（1%）減少）となった。

田畑計の耕地利用率は90.4%（前年に比べ0.6ポイント低下）となった（表13）。

(2) 田の作付（栽培）延べ面積は215万ha（前年に比べ2万5,000ha（1%）減少）となった。

田の耕地利用率は92.7%（前年に比べ0.4ポイント低下）となった（表13）。

(3) 畑の作付（栽培）延べ面積は171万1,000ha（前年に比べ2万6,000ha（1%）減少）となった。

畑の耕地利用率は87.7%（前年に比べ0.8ポイント低下）となった（表13）。

表 13 令和6年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計			田			畑		
	作付（栽培）	前年との比較		作付（栽培）	前年との比較		作付（栽培）	前年との比較	
	延べ面積	対差	対比	延べ面積	対差	対比	延べ面積	対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	3,861,000	△ 51,000	99	2,150,000	△ 25,000	99	1,711,000	△ 26,000	99
水 稻（子実用）	1,359,000	15,000	101	…	nc	nc	…	nc	nc
麦 類（子実用）	296,800	1,100	100	190,600	1,500	101	106,300	△ 300	100
大豆（乾燥子実）	153,900	△ 800	99	119,400	△ 2,600	98	34,500	1,800	106
そば（乾燥子実）	69,000	1,900	103	39,500	100	100	29,500	1,700	106
なたね（子実用）	1,680	△ 60	97	…	nc	nc	…	nc	nc
そ の 他 作 物	1,980,000	△ 68,000	97	440,500	△ 38,900	92	1,540,000	△ 29,000	98
うち 飼 料 作 物	975,600	△ 42,400	96	252,100	△ 34,500	88	723,500	△ 7,500	99
野 菜	422,600	△ 7,400	98	…	nc	nc	…	nc	nc
果 樹	190,300	△ 4,200	98	-	nc	nc	190,300	△ 4,200	98
耕 地 面 積	4,272,000	△ 25,000	99	2,319,000	△ 16,000	99	1,952,000	△ 10,000	99
耕 地 利 用 率	90.4	△0.6ポイント	-	92.7	△0.4ポイント	-	87.7	△0.8ポイント	-

注：1 耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした場合の作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率（％）} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積}} \times 100$$

2：水稻（子実用）、なたね（子実用）及び野菜の作付面積については、田畑別を調査していない。

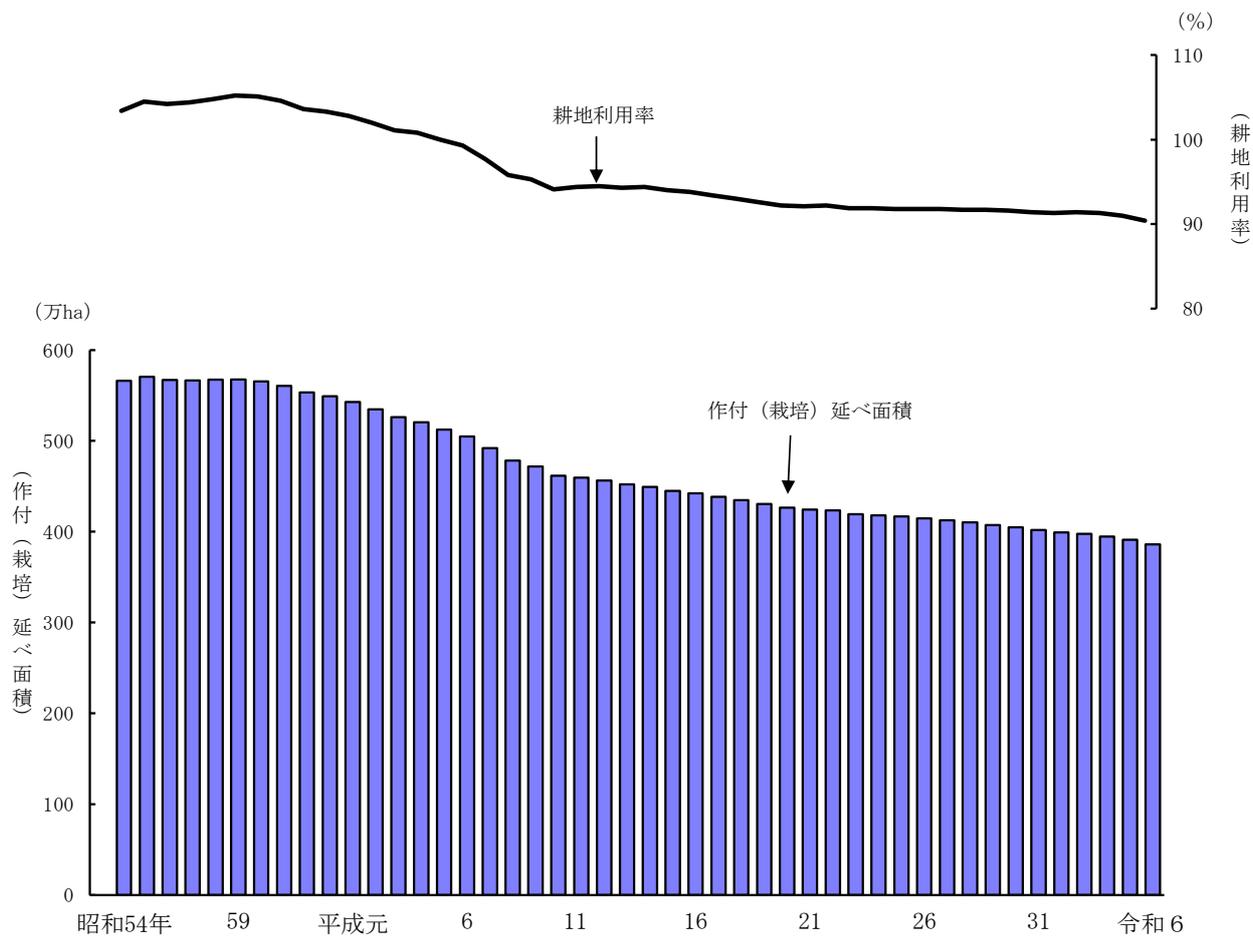
3：野菜は、作物統計調査で把握した41品目の合計作付面積（公表値）である。

4：果樹は、作物統計調査で把握した15品目の栽培面積（公表値）を積み上げて算出したものである。

(4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和49年から昭和60年は麦類の生産振興による作付面積の増加等からほぼ横ばいで推移した。昭和61年以降は作物ごとに増減はあるものの、総体的には減少傾向で推移している（図12）。

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和48年から平成4年までは100%を越えていたが、平成5年に100%となり、平成6年には99.3%と100%を下回った。平成7年以降はおおむね低下傾向で推移している（図12）。

図12 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移



2 夏期における田本地の利用状況

(1) 令和6年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は151万4,000ha（青刈り面積を含む。）（前年に比べ1万7,000ha（1%）減少）となった。

水稲以外の作物のみの作付田は39万3,200ha（前年に比べ7,300ha（2%）減少）となった。

また、夏期全期不作付地は28万4,400ha（前年に比べ9,500ha（3%）増加）となった。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は69.1%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は17.9%、夏期全期不作付地の割合は13.0%となった（表14）。

表 14 令和6年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
田 本 地	ha 2,192,000	ha △ 15,000	% 99	% 100.0
水 稲 作 付 田	1,514,000	△ 17,000	99	69.1
水稲以外の作物のみの作付田	393,200	△ 7,300	98	17.9
夏期全期不作付地	284,400	9,500	103	13.0

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあったものの、水稲作付田は減少傾向で推移している（図13）。

